その他関連する学習

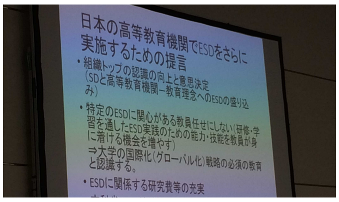
ESD ユネスコ世界会議交流セミナー報告書

団体名　日本環境共生学会

【ESD ユネスコ世界会議の成果】

日本環境共生学会は、11 月 12 日 9 時～10 時半に名古屋国際会議場の 133/134 会議室において、「持続可能な未来づくりに向けた高度な人材育成のあり方」をテーマにした併催イベントを開催した。

21 世紀におけるサイエンス、ポリシー、ビジネスなどのグローバルリーダーには、持続可能な地球社会を創りだす能力が備わっていることが不可欠である。国連は、「ミレニアム開発目標（MGD）」の次に「持続開発目標（SDG）」を策定し、国際科学会議（ICSU）は、持続可能な地球社会のためのサイエンスを目指す「Future Earth」プログラムを始めている。こうしたことから、①持続可能な未来に向けた若い科学者に対する教育、②持続可能な未来に向けた広い意味のポリシーメーカーの育成、③21 世紀の高等教育における「リベラルアーツ」としての ESD、それぞれのあり方に関して議論を深めた。



まず、日本環境共生学会会長で名古屋大学・持続的共発展教育研究センター長の林良嗣教授から、「持続可能な未来づくりに向けた高度な人材育成のあり方ー名古屋大学の取組からー」をテーマにした基調講演があり、次に、富山県立大学の九里泰徳教授から「日本の高等教育機関の ESD の取組の現状と課題ー「日本の高等教育機関における ESD 実施に関する実態調査」からー」についての報告があった。ここでは、日本の高等教育（大学・短大・高専）で ESD に取り組んでいるのは、わずか約 3 割であることがわかった。

その中でも ESD 取組が進んでいる奈良教育大学、北九州市立大学、大阪府立大学から、それぞれの取組内容について発表があった。

【今後の展望】

高等教育機関は、21 世紀におけるサイエンス、ポリシー、ビジネスなどのグローバルリーダーを育成するというミッションを持っているはずである。そして、そのリーダーたちには持続可能な地球社会を創りだす能力が備わっていることが不可欠である。

今後、日本環境共生学会は、このような観点から、高等教育における ESD として、各高等教育機関がそれぞれ、または共同・連携して、まず、持続可能な未来のための価値・原則や環境・経済・社会・文化などの相互依存性に関する知識を共有化し、そのうえで、課題解決のための能力・技能を涵養するという体系的なプログラムを編成し、推進するよう働きかけていく。